

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考えよう」』

サブテーマ

- ①長野県の誇る健康・長寿について
- ②長野県を支える産業について
- ③みんなが憧れる長野県での暮らしについて

日時 平成24年6月23日（土）午前10時から正午まで

場所 飯田合同庁舎 講堂

目次

1	知事あいさつ	1
2	ワールド・カフェ方式による意見交換	2
3	まとめ発表	2
	（1）長野県の誇る健康・長寿について テーブルC	2
	（2）長野県の誇る健康・長寿について テーブルE	2
	（3）長野県を支える産業について テーブルA	3
	（4）長野県を支える産業について テーブルD	3
	（5）長野県を支える産業について テーブルB	4
	（6）みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルA	5
	（7）みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルD	5
	（8）みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルB	5
4	知事あいさつ	6

1 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、おはようございます。本日は大変忙しい中、朝から県政タウンミーティングにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。タウンミーティングは、私が就任してからなるべく県民の皆さんと県政との距離を近づけたいということで開催をしてきております。今日で通算21回目ということで、総参加延べ人数1,600人を超えているという状況です。215万人県民ですから、まだまだそれでも一部の皆さんしか参加していただけてないなと思いますけれども、ただどうしても市町村と県民の皆さんというのはいろいろな窓口等で接する機会も多いと思いますけれども、県庁、まあ地方事務所や建設事務所はともかく、県の本庁舎というのは、なかなかこの飯田・下伊那の皆さんからすると、遠くて一体何をやっているのだから分からないというところがあるかもしれません。

是非、県庁を身近に感じていただく機会にさせていただきたいなと思いますし、今日は「20年後の長野県を考える」ということで、今、県の最重要政策課題の一つが新しい中期総合計画を策定するというので、今年度中には策定して、来年度から新しい計画をスタートさせたいと思っています。

中期計画もまた県民の皆さんからすると縁がほとんどないというところが正直なところではないかなと。今の中期計画の目標ってご存知の方はあまりいないんじゃないかと私は思っているのですけれども、私は新しい中期計画は細かい中身を県民の皆さんに知っていただくことは必要ではないと思いますけれども、是非、大きな方向性としてどういうビジョンを掲げてどういう分野に重点を置いて県が取り組んでいこうとしているのかということ、分かっていたら計画にしたいと思っています。

そして、これは私の県政全般そうでありましてけれども、行政だけが物事を進めていく時代はもう過去のものだと思っています。県民の皆さんと一緒に考えて、一緒になって行動することが行政に求められているわけでありまして、是非、県民の皆さんには一緒になって、あるいは率先して行動していただきたいと。そういう意味で、作った計画の目標達成は、放っておけば県がやってくれるんじゃないかとか、市町村がやってくれるんじゃないかということじゃなくて、皆さんと一緒に作っていき、実現していき、そうした計画にしていきたいと思っています。

中期計画は、今日のようなタウンミーティングを始め、大学生とか高校生との意見交換とか、市町村長の皆さんとの意見交換とか、様々な形で組み立ててきていますが、まだまだ具体的なプロジェクトをどうするかというのは、これからが正念場であります。是非、今日は皆さん方からいろんな意見を出していただいて、そうしたものを反映した計画にしていきたいと思っています。

「20年後の長野県」というテーマ設定は、中期計画の目指す社会像は20年後どういう社会にしたら良いかということを設定していることと合わせているわけですが、けれども、「20年後なんて想像できない。」とよく言われますけれども、確かに想像できないことはいっぱいあると思いますし、こういうふうになるんじゃないかと思っても全然違うことになるかもしれないし、ただ私はやはり社会を作っていくのは人間、人間の社会ですから、人間で、我々が作っていく。長野県の将来を作るのは何となく放っておいて長野県ができるわけではなくて、県民の皆さん一人ひとりの思いがあって、行動があって

20年後の長野県が作られると。これは間違いない話だと思います。そういう意味では是非こういう社会にしたい。こういう長野県でありたい、そういう思いを多くの人たちがしっかりと持ち合って共有し合えることが、より素晴らしい長野県づくりにつながっていくと思っています。そういう観点で前向きなですね、そして夢と希望の持てるビジョンを今日は語り合っただければ大変ありがたいなと思っています。

私のあいさつが長くなってしまっていて恐縮ですけれども、是非、そういう意味で率直な、そして楽しい雰囲気の中で前向きな議論が行われることを期待しまして、私のあいさつといたします。よろしくお願ひいたします。

2 ワールド・カフェ方式による意見交換

サブテーマごとに3つのグループに別れ、さらに各グループ内で6名前後ずつのテーブルに別れて意見交換を行いました。

参加者のご意見等については、別に「ご意見の概要等」や「ご意見の反映状況」として公表しますので、そちらをご覧ください。

3 まとめ発表

各グループから、くじ引きで2テーブルずつ発表テーブルを決定し、該当テーブルから発表者1名が意見交換の内容を発表しました。

そのほかのテーブルへは、司会から補足意見があれば発言するように求めました。

(1) 長野県の誇る健康・長寿について テーブルC

自分一人では意見がまとまらないので、皆さんの意見を読み上げていきたいと思っています。地産地消の確立が産業を生み、地域のつながりから生きがいが生まれます。生きる希望は長寿の源になります。地域住民・行政・経済団体・生産者団体が一堂に方向性を出すことから、生きがい発見の場となり地域住民の地域活性化になる。世代を超えて助け合える長野県。

アイデアが、住んでいない家や集落センターの活用。市町村じゃなく、各地域、各地区といった小さな集まりの上でしたらどうかということです。

問題点は、高齢者ばかりでなく若者が飯田に残って働く場所が必要であり、地域産業を発展させ、地域づくりをどうしていくかというのがやはり問題になると思います。

(2) 長野県の誇る健康・長寿について テーブルE

20年後の長野県のあるべき姿のキーワードとして、食べることの大切さや生きがいを感じられる長野県ということで、いろいろ出ていますけれども、一応そういうことでこのグループではなりました。

工夫やアイデアにつきましては、若い人や子どもに食の大切さを分かって

いただけるような各地域での取り組みをしていくと。高齢者の方々には気楽に会えるようなコミュニティ、コミュニケーションのできる場所を地域地域に作っていく。それから、年金の増額が出ております。それから地産地消。

障害となることや今後に解決しなければならない問題は、お金も必要です。今、若いお母さんたちに食の大切さがなかなか伝えられないので、認識してもらうにはどうしたらいいだろうか、学校での教育も必要、それから、結びつきって言うんですか、つながりの作り方。簡潔にそんなところでございます。

(3) 長野県を支える産業について テーブルA

まず、農業関係の方、農業者の方がいらっしゃいまして、それぞれ個々でいい作品を作ってそれぞれのネットワークで販売もしている方がたくさんおられますけども、それをやっぱり県全体としてより強く打ち出していく必要がやっぱりあるだろうし、そのための規制もやはり障壁を外していただきたいものもあるというご意見。あるいは林業分野の方からは、この木材の地産地消を考える中で、やはり木材利用に係る新たな価値というんですかね、それを結び育むという必要があるだろうと。

また、商工業に係る方からは、単純に周辺県とのコスト競争ということに陥るのではなくて、環境等を含めた総合的な中で、新たな貨幣価値を超えた競争力というものを高める必要があるんじゃないか、等々の意見が出てきました。観光も含めてですけれども、それをトータルで解決していく中では、お互いネットワークをうまく作る中でそういったものを一つ一つ障壁を取り除きながら、長野県として柱となるようなブランド、農産品だろうが工業製品だろうが、そういったものを柱としての絞って作って打ち出していく、そういう必要があろうかと。20年後にはそうしたネットワークがしっかり形成されて、なおかつ県のライフスタイルそのものも日本全体の教育の中にも浸透させていけるような、そんなブランドイメージの高い長野県を作り出していきたくと、そういうふうな意見にまとまってきました。

(4) 長野県を支える産業について テーブルD

キーワードはまとまっていませんので、3人の方のをまず発表します。長野県のブランド化は「果物、自然、人、長寿長野、生涯現役に価値を付けて」というキーワードの方と、「皆で地域で考え伝えていく長野」というキーワードと、「自然の中で人と人がつながる長野県」というキーワードがありました。

それで、キーワードは違うのですが、意見として集約されてきたことは、一つとしては、自然を含めて、長野県という地域には様々な資源があるので、その資源を上手に活用してさらに価値を上げていくという、そういう政策が必要でしょうということです。そのためには、今、個々人の生産者ですとか、個々の村とか個々の地域では非常に頑張っている方がいるんですが、長野県全体ということになると、なかなかその価値が高くない。だから県というくくりで、全体で付加価値を上げていく、ブランド化していくという大きなくくりで考えていく必要があるのではないかとということ、それからやはり人の力が大切になってくるので、どういうふうにそういうようなことをやれる人を作っていくか、人材の育成ということが大事ではないかというような意

見が出ました。

それで障害になることですが、まず第一としては、長野県という地域が非常に南北に長くて、お互いの地域同士が良く知らないので、いわゆる県としての一体感がなかなか保てないというところがあり、またコミュニケーションが不足するという、そういうような問題を解決していかないと、長野県全体でブランド化していくことは難しいだろうと。

それから、農業分野とか林業分野で可能性があるというのが、我々の中でかなり出ていたのですが、やはり様々な規制や既得権益というのがあるので、そういうものをうまく長野県という立場で調整してもらってより良い方向にいくということが大事かと思えます。

あとやはり、人と人がつながる中で人が教育されているので、是非そのような機会を今後たくさん増やしていく中で、20年後活躍できる人材を作っていくと、そういうような教育というところにお金をかけないとなかなか難しいのではないかというのが我々の意見でございます。

(5) 長野県を支える産業について テーブルB

私の大好きな農業関連・自然エネルギー関係の方々と良い意見交換ができて、簡潔にまとめさせていただきます。

県に作っていただいたこの総合計画。5つの諸問題と大綱ですね。これらを生かして課題を整理するために一つの案としまして、自然との親和性の高い科学技術のみを用いた「1,000年続く互惠性社会」を作ったらどうかという案を考えております。

具体的提言としまして、気候、風土、文化、言語で区分けした「1,000年続く互惠性社会」、いわゆる低エネルギー社会ですよ、このモデル特区を作ってしまうと。いろいろ行政で保護されたり、税制的な優遇があるのですが、これが提言1。

次に提言2の県内6つの産業これを優先的に支援して保護を行うということで、この提言1・2を何に結び付けるかということなのですが、これはもちろん県民の喜びあふれる暮らし、あと、持続可能性の高い社会の規範を作って、世界へ結び付けるということと、今ある県の持つ最先端技術のさらなる進歩、イノベーションな改革を続けて、世界への国際貢献へと結び付けるというイメージです。

そのモデル特区なのですが、その中に循環型農業があったり、スマートグリッドがあったり、あと言葉の表現は難しいのですが、ハイブリッド経済、要は資本主義経済とボランティア経済。ボランティア経済とは簡潔に述べますと、人的支援の乏しい産業分野をワーキングシェアの逆ではないのですが、労働力を分かち合って補っていこうというイメージをしていただければありがたいと思えます。

それで、ちょっとこの斬新な意見なのですが、やはり長野県民には農業を主軸として生きていくというのが皆さんから聞きまして、基本的に県民が皆農業をする「県民皆農」。このためには行政、条例が必要となってきますが、「徴農制度」、徴兵制度ではないですが、徴農制度というのを作ったらどうかと。もちろんこれは強制力はありませんし、断ることができるというイメージで、徴農制度を作ったらどうかという意見があります。

(6) みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルA

まず、先ほどもちょっとご意見がありました。県庁が遠すぎると。20年後を見据えて今から松本あたりに県庁を。知事さん、今から基金を積み始めれば必ずいけますから是非お願いします。まあ、そんなことで、そうなればいろいろな面で交流ができるのかなという意見が出ました。

それで、まず本当に暮らしたい長野県ということで、長野県にはご覧のとおりいろいろな文化がございます。各地域にも。それをまず守っていく、担い手をもっと育てていかなければならないということ、それから自然豊かなこの長野県、水も空気も本当においしいと言われております。そのために山を守っていかなければなりません。森林税をさらに拡充して、末永く長野県が全国に誇れる良い自然の県にさせていただきたいなと思います。また、各地域が元気になれば、長野県も自然と元気になるのです。各地域、今県から出ている元気づくり支援金をさらに継続して各地域が頑張っていけるような方向に持って行っていただけたらと思っております。

(7) みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルD

このグループの中でも多く出ましたのが、「自然豊かな長野県」と。やはり自然が豊富であるということで、皆さんの方で意見が多く出ました。

あと、農業の方が、農業の発展を目指して、20年後のあるべき長野県ということで、やはり農業を大事にした、長野県の生活を目指していくところで多く意見が出ました。

また、若者を多く呼ぶということで、活性化したいというところで、若年者の雇用・労働環境の整備が必要ではないかというお話もありました。

また、グリーン・ツーリズムであるとか、Iターンというような制度を活用して、都会から移住を促進したりとか、地産地消を促進していったりとかというところが今後大事になるのではないかというような意見もありました。

また、そういったところを含めた中で、長野県を今後ブランド化してPRするための方法が求められるのではないかと。またそれに伴いまして全体的な法であるとか、条例、予算の関係の計画を整備をしていくというところが今後課題になるのではないかとといったところが主に出ました。

(8) みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルB

20年後の長野県ということを目指していたので、私たちの世代というよりは、今の子どもたちが20年後にどうするかというようなことがほとんどそんなお話で盛り上がっていました。

20年後といいますと、特にここ南信州ではリニアが走って、東京がぐっと近くなって、私が飯田へ出てくるよりは東京の方が近くなるというような距離になるんですけれども、そういった中で、子どもたちに山の大切さだとか、環境問題だとか、そういった今、皆さんがおっしゃった様々な産業のことだとか、そういったことを子どもたちの総合学習の中で、教育をしていくというものを長野県全体で、それぞれの学校とか地域それぞれで総合学習やっていると。長野県全体で、ある程度は同じカリキュラムで教育をして、あとは地域の独自性、南信州らしさというものも出した教育をしていったらどうかということで、お話が出ました。

また、リニアということに関連して、やっぱりこの辺は自然も豊かですし、いろいろな生物も多様化していますので、研究機関だとか学校だとかそういったものと呼んでというか、建てると言いますか、お金もかかることですが、「第2の学園都市」として南信州がそういう方面から発展していったら良いかなというお話が出ましたので、少しですが報告させていただきました。

4 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、大変熱心にご意見、ご議論いただきましてありがとうございます。

時間が短いのでまだまだ言い足りない方も大勢いらっしゃるんじゃないかと思えますし、せっかく発表者に当たってもくじ引きで外れちゃった人もいて、大変申し訳ないなと思えますが、皆さんから出していただいた紙はちゃんと整理して、我々の計画の中に反映できるように考えていかなきゃいけないと思っています。

私も一緒に加わらせていただいたので、私は健康長寿のところのグループだったのですが、長野県は健康長寿県だといっていますし、今回の中期計画の大綱の中にも、健康長寿を「目指すべき姿」というものの中に位置付けているのですが、もう少し中身をしっかり考えていかなければいけないなという思いを私自身は今日皆さんをお話しして持ちました。

単に平均寿命が長いと、今までは平均寿命が延びていくということは非常にそれは良いこと、それ自体望ましいことだと思いますし、世界の中でも日本は長寿国で、その中でも長寿県ということは、やっぱり世界的な長寿地域であるわけですが、ただ今日も出ていましたけれども、やっぱりその中身がこれからはどんどん問われてくるのだろうと思っています。

健康寿命という部分もありますし、あるいは生きがい、やりがいということもあります。こうしたことを抜きに、単純に生物化学的な年齢だけが延びるということではいけないなと思いますので、少しそこら辺は県としてもしっかり考えていかなければいけないと思います。

それから、高齢者、長寿、お年寄りの問題という形になりがちですが、今日も話を伺っていて、これは世代間の問題だなと私自身は思いました。例えば食の問題が大事だと、私も全くそう思いますが、食の問題を考えた時に、先ほどもお話に出ていましたけれども、やはり若いお母さんたち、若い世代にそうした食の大切さをしっかりと伝えていくことが実は健康長寿県を守っていくことにもつながるといえるように思いますし、それから、山奥の中山間地の暮らし、まあこれはお年寄りだけの世帯、あるいは独居のお年寄りの方たちが増えているわけですが、これはお年寄りの問題ということで捉えるとなかなかその解が出てこないのかなと。むしろ私のグループは3世代同居みたいなことをやったらという話もありましたけれども、ただその若者たちが地域にしっかりと根ざした暮らしができるようなことを考えていくことを抜きに、高齢社会をどうするかということで、お年寄りのことばかり光を当てても、なかなか解決しないなと思いました。

そういう意味で健康長寿の長野県ということの内実をこれからしっかりと考えて、そして県民の皆さんとやっぱりこういう健康長寿のイメージというのは単に平均年齢高いだけじゃなくて、こういう中身だよということを共有していけるような計画に是非していきたいと今日改めて思いました。

あと、他の分野はそれぞれ発表があったので私の方からは個々には踏み込ん

でコメントはしませんけれども、先ほどちょっとお話があった、「県民皆農」「微農制度」とか、私は非常に良いなあと思います。

良いなあというのは、先ほども発言がありましたけれども、長野県せっかく良い環境のもとにしながら、子どもたちの教育の中にも十分にそうした農業体験だとかあるいは林業体験とかそういうものが、個々の学校では頑張っているけれども、必ずしも全体としての統一感が少し弱くなっているなと思います。長野県で育った子どもはこういう能力とかこういう知識を必ず持っているよという形で、是非考えたいなと私はかねがね思っているのですけれども、皆農、微農というのは、ちょっと私が言うと批判されそうですけれども、そういう思いをこの長野県の中に根付かせていければいいのかなと。

それから、県庁が遠いというお話があって、私も県庁遠いなと正直思いますね。これは大きな県であればこそその課題として、先ほどもありましたけれども、それぞれの地域は個性が強くて、それぞれの地域の取組は非常に良いんですけれども、県という広域行政になると少しそこのところが弱まっているのかなと、これは県庁の場所の在り方の問題だけではなくて、少し県全体としての統一的な発信の取組というのをしっかりやっていきたいと思っています。

新しく信州ブランド推進室というのも作って、県全体のブランドをもう一回見つめ直して磨きをかけていきたいと思っておりますので、ブランドの話は理屈の話だけではなくて、理屈というよりはむしろ共感を持っていただけるような発信を県内外にしていかなきゃいけないと思っています。

是非、皆さんには、我々しっかりブランドを考えて、投げかけをしていきたいと思っていますので、冒頭も言いましたけれども、一緒になって磨き上げていただくように我々もそういう、単にロゴマーク作ったからこれ使ってねというレベルの話ではなくて、長野県の磨くべき、価値、財産というのはこういうもので、一緒になってそれを磨いて発信していきましょうという願いをまた別途させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

あと、全体を通じての話なのですが、私は中期計画自体はこれまでの行政の進んできた路線を粛々と進んでいくような計画にはしたくないなと、そういう計画ではあまりにも夢がないなと。あるいは長野県にとって望ましい将来が切り拓けないなと思っています。もちろん守ることはしっかり守りますけれども、今までの社会と違ってもう人口は減少時代です。そして、人々の価値観は本当に物の豊かさを皆で追求しようという時代がずいぶん続き過ぎたわけですが、その頃に比べれば、物の価値、どこに重点を置くかというのはそれぞれ多様化してきています。そういう中で、県全体のビジョンを作ることは昔以上に私は難しくなっていると思いますけれども、その中でもやはり皆さんと共有できる目標をしっかりと掲げて、その方向で突き進んでいくようなものにしていきたいと思っています。

どなたかの発表にもありましたけれども、私は長野県は本当にいろんな価値がいっぱいあると思っています。この景色だって本当に都会の人から見れば、ここでこういう議論をしていること自体が、素晴らしい環境の中での議論だと思っています。例えば、今、信州自然エネルギー元年ということで、県としてのエネルギー政策をしっかりと進めていきたいと思っておりますけれども、太陽の日照時間長いですよ。そういう太陽光熱のエネルギーを活用する可能性、長野県はいっぱいあります。それから水も豊かで急峻な地形ですから、小水力発電も適地がいっぱいあります。周りを見渡せば山がいっぱい、木がいっぱいですから、木質バイオマスエネルギーもふんだんに活用する可能性はあります。

今まで、一頃山は財産だったのが、実は私の祖父の時も、山がいっぱいあるから守一に継いでやろうなんてことを聞かされたことがありますけれども、今は山が財産どころか管理するのが大変だという形で、財産から負債の方にまわ

ってしまっていますけれども、長野県、今まで負債扱いされていたものがこれからどんどん価値が出てくる時代に入ってきていると思っています。そういうものをもう一回しっかりと見つめ直して皆さんと一緒にその価値を活かしていく、そういう取組が重要になってきていると思いますので、是非そういう方向性も中期計画の中でしっかりと打ち出していければいいなと思っています。

私の考えばかり長く述べてしまいましたけれども、今日皆さん本当にいろんなアイデアを出していただきました。そうしたものも含めて大きな方針を打ち立てて、皆さんと一緒に中期計画を作って、そして取り組んでいきたいと思っていますので、今日限られた時間でありましたけれども、今後の長野県の取組にも是非関心を持って見守っていただければと思いますし、策定後の実行段階にも、冒頭申し上げたように県民の皆さん方の一緒の取組が私は不可欠だと思っています。そうした取組にもご協力をいただくことをお願いをして、そして改めて今日ご参加いただきましたことに感謝を込めまして、私からのお礼のあいさつといたします。

本日はありがとうございました。